

8809 海外によくいらして英語をお使いになる・・・

—海外によくいらして英語をお使いになる間に、いろんなおもしろいエピソードもございましたでしょう。

盛田 そうですね。チップンカンプンで非常におかしいこともたくさんあったけど、私は楽天的なのかもしれない。自分の失敗はすぐ忘れる。

—それは非常に重要なポイントだと思います。間違いに神経質になってあまり英語を使わないでいると、一つの失敗が鮮明に記憶に残って、それにこだわってしまうのでいけない。

乱暴な言い方をすれば、失敗の数を忘れるほど、失敗することが大事です。

聞き手 西山 千『英語とつきあう私の方法』

#### [許容訳例]

--: You often went overseas and had to speak English, so you must have had a lot of interesting experiences...

Morita: Well, there were some funny cases where I couldn't make myself understood at all. But I may be an optimist -- I soon forget my own failure.

--: I think that's a very important point. When one is too serious about one's mistakes so that one doesn't use one's English, a single failure remains forever clearly in one's memory and makes it difficult to speak English at all. To put it rather crudely, it's important that one should make so many mistakes that one cannot remember how many there were.

#### [翻訳例]

--: You've been abroad and had to use English so often -- I'm sure you've had a lot of interesting experiences.

Morita: Yes.... There were lots of times when my English turned out quite unintelligible. But perhaps because I always look on the good side of things, I soon forget my own mistakes.

--: I think that's a very important point. If you're so sensitive about your mistakes that you don't use your English much, every single mistake stays clearly in your memory and becomes a stumbling block to progress. To oversimplify rather, the important thing is to make so many mistakes that you forget just how many there were.

■海外によくいらして英語をお使いになる間に、いろんなおもしろいエピソードもございましたでしょう。 (8809)

★「海外に（行く）」は、ただ単に「海外へ行く」という意味の場合は習慣として *abroad* を使います。 *overseas* はよく仕事の関係で出張するという場合に用います。この「盛田」はたぶん、ソニーの盛田氏のことでしょうから *overseas* でもいいです。

★「よくいらして・・・」は「今まで何度か海外に行った」ということですから、過去時制

でもいいですが、普通は You've often been abroad [overseas] と現在完了を使うでしょう。

★「英語をお使いになる」は use English でも speak English でもいいでしょう。ただ、海外で強いられて使わざるをえないですから have to を付けるべきです。

### ● 「よく・・・する間に」の対応

この「間に」は、非常に訳しにくい。普通は while でいいのですが、ここでは前に「よく」という言葉があるので「何回も行って、何度も使っているのだから、その間に」ということなので while は使えません。続く後の部分との論理関係は「だから」(so)ですが、日本文では隠れている論理なので、英語でも隠すとすると、ピリオドでいったん文を切るかダッシュで繋ぐか、あるいは so often that…を潜ませて so often -- …とするしかないでしょう。

★「エピソード」ですが、英語の episode は、たとえば、一つの伝記の中にいくつかの episode があるというように、あくまでも何か全体のものがあって、その中の部分的なものを表す言葉ですものなので、ここでは使えません。ここでは、「経験」(experiences)と言い換えるしかありませんが、日本語の感覚では「エピソード=話」なので stories も可能です。

★「いろんなおもしろいエピソードもございました」は「いろいろ面白い経験をした」として have a lot of interesting experiences とします。ただ、もう少し日本語の「エピソード」(=話)に近い感じを出したいなら you could tell all kinds of interesting [amusing] stories とすることも出来ます。

★「・・・でしょう」は You had a lot of interesting experiences, didn't you? でも間違いではありませんが、ちょっと断言的です。ここは「当然そうだろうと思っている」という感じなので、I'm sure とか I imagine とか I suppose を使うといいでしょう。

■ そうですね。チンパンカンパンで非常におかしいこともたくさんあったけど、私は楽天的なのかもしれない。(8809)

★「そうですね」は Well, ですが、簡単に Yes, でもいいと思います。また、ちょっと考えている感じを出すのなら We]]…とか Yes…としてもいいでしょう。

★「チンパンカンパン」は「(使ってみると)私の英語は(相手に)チンパンカンパン…」ということですから、turn out (してみると結果は…である) を使って my English turned out quite unintelligible とすることが出来ます。簡単に my English was quite [ridiculously unintelligible でもいいし、要するに「まったく通じなかった」ということで I couldn't make myself understood at all でもいいでしょう。ついでながら「チンパンカンパン」は辞書では be Greek to/ be gibberish to と出ていますが、前者は It's [That's] Greek to ~の形でしか使わないし、後者は be gibberish to me (What he says is complete gibberish to me. 彼が何を言っているのか僕にはチンパンカンパンだ)の形でしか使えません。その点、unintelligible は。たとえば、What I said seemed to be unintelligible to her. (僕が何を言っているのか彼女にはチンパンカンパンのようだった) のように使えます。

### ● 「隠れ連体修飾節+体言」(・・・で非常におかしいこと)

「非常におかしいこと」は「副詞(非常に[very]) + 形容詞(おかしい[funny]) + 名詞(こ

と things)」のようですが、前の「チンパンカンパンで」と絡んでいるので「こと」は「場面・場合(cases)」とか「時(times)」の言い換えと考えなければなりません。そうすると先行詞 cases/ times)によって「関係詞」を変えて。cases なら where であり、times なら when です。(下に続く)

★「・・・こともたくさんあった」は、There were many [lots of] times when…とか There were some funny cases where… です。「非常におかしい」は「チンパンカンパンで」の中で処理するのが英語的です。なお、funny というのは「今思い出しても笑ってしまう」という感じです。

★「楽天的」は optimist でもわからないことはないのですが、これは「十分な根拠もないのに万事うまくいくだろうとのんきに構えている」というような感じの言葉で、よく考えてみるとこの場合とちょっと違うような感じがします。ここは「こだわらない」に近い感じなので I always look on the good side of things. という言い方が合うと思われます。あるいは簡単に easygoing (こだわらない) を使って I'm so easygoing. でもいいでしょう。

■自分の失敗はすぐ忘れる。(8809)

★「自分の失敗はすぐ忘れる」は I soon forget my own failures. とか I soon forget my own mistakes. とかでいいでしょう。

### ● [関係性指標] の処理 [けど]

日本文では「チンパンカンパンで非常におかしいこともたくさんあった [けど]、私は楽天的なのかもしれない。自分の失敗はすぐ忘れる。」となっています。表層的には「A [けど]、B. C.」となっていますが、内容的には「A [けど]、(たぶん B のだろう) C.」です。つまり、A [けど] (逆接) は B とではなく C と逆接関係にあるわけです。したがって、英語で A. But B. C. とすると、A と B が逆接関係になってしまいます。それで、A と C が逆接関係になるように A. But B --C とするか A. But (perhaps because B) C. と続けなければならぬと思います。

■それは非常に重要なポイントだと思います。(8809)

★「それは非常に重要なポイントだと思います」は、そのまま I think that's a very important point. でいいでしょう。なお、付ける必要はありませんが、加えるとしたら for learning English ではなく in learning English です。この in は when [if] one wants to do something という意味です。

■間違いに神経質になってあまり英語を使わないでいると、一つの失敗が鮮明に記憶に残って、それにこだわってしまうのでいけない。(8809)

★「間違いに神経質になる」は、ここでは一般論を述べているので、主語は one とか you で one is [you are] too serious [sensitive] about mistakes とか、あるいは one takes [you take] mistakes too seriously でもいいです。

★「あまり英語を使わない」は one doesn't use one's English much とか you don't use your English much です。ここで English に所有格 one's [your] を付けると、せっかく英語を知っ

ているのにそれを使わないでいるというニュアンスが出ます。

● [・・・になってあまり・・・]

「・・・になっ [て]・・・」は「動作順次」ですから and で結ぶこともできますが、「あまり・・・」とあるので so...that...も使えます。その場合は too を so に変えることになります。

● [と] (同時・条件)

「・・・いる [と]」は when (同時) でも if (条件) でもいいでしょう。

★「一つの失敗」は a single failure [mistake] でもいいですが、「一つの失敗が・・・」という日本語には「失敗するたびに一つの失敗を気にして・・・」というニュアンスが含まれているように感じられるので every single mistake としてももいいです。

★「鮮明に記憶に残る」は stay [remain] clearly in your [one's] memory でしょう。

★「それにこだわってしまうのでいけない」は日本語としてすっきり理解できません。「一つの失敗が鮮明に記憶に残って、それにこだわってしまうのでいけない」ということでしょうから「それが邪魔になって前に進めなくなる」(become a stumbling block to progress)とか「それが重しになってかえって邪魔になる」(acquire [get] an exaggerated importance in one's mind)とか、意訳せざるを得ません。辞書で「こだわる」をみると be particular about; stic to; fuss over small detail などが出ていますが、be particular about は「味にうるさい」というような場合に使うものですし、stick to は insist on と同じような意味です。fuss over は make difficulties と同じで「素直に受け入れてもいいのに何かにこだわる」といった感じです。「こだわる」とか「こだわり」は case-by case で意味を考えて訳すしかありません。

★「いけない」ですが、ここでは must not は使いようがありません。ここ「いけない」は「～だから駄目なんです」ということで、そういう negative な意味は、すでに a stumbling block とか exaggerated importance という表現に入っているわけですから、無理して訳す必要はありません。

■乱暴な言い方をすれば、失敗の数を忘れるほど、失敗することが大事です。 (8809)

★「乱暴な言い方をすれば」は「おおざっぱに言えば」ということでしょうから to put it rather crudely [to oversimplify rather] でしょう。to speak...にすると「しゃべる」の意味が残るので「表現する」の意味の put を使う方がいいです。

★「失敗の数を忘れるほど、(失敗する)」は (make) so many mistakes that one forgets their number とか one forgets just how many there were くらいでいいでしょう。意訳して so many mistakes that one stops worrying about them でもいいでしょう。なお、微妙なところなので、so many mistakes that one cannot remember them とすると、何となく失敗の内容が問題になるような感じになります。日本語の通り so many mistakes that one forgets their number がいいと思われます。

★「～することが大事です」は It's important that...より The important thing is that ~ [to...] の方がパンチが効いていいです。that ~ の場合は subjunctive で one make so many mistakes...

か one should make so many mistakes…ですから to make…とした方が簡単です。